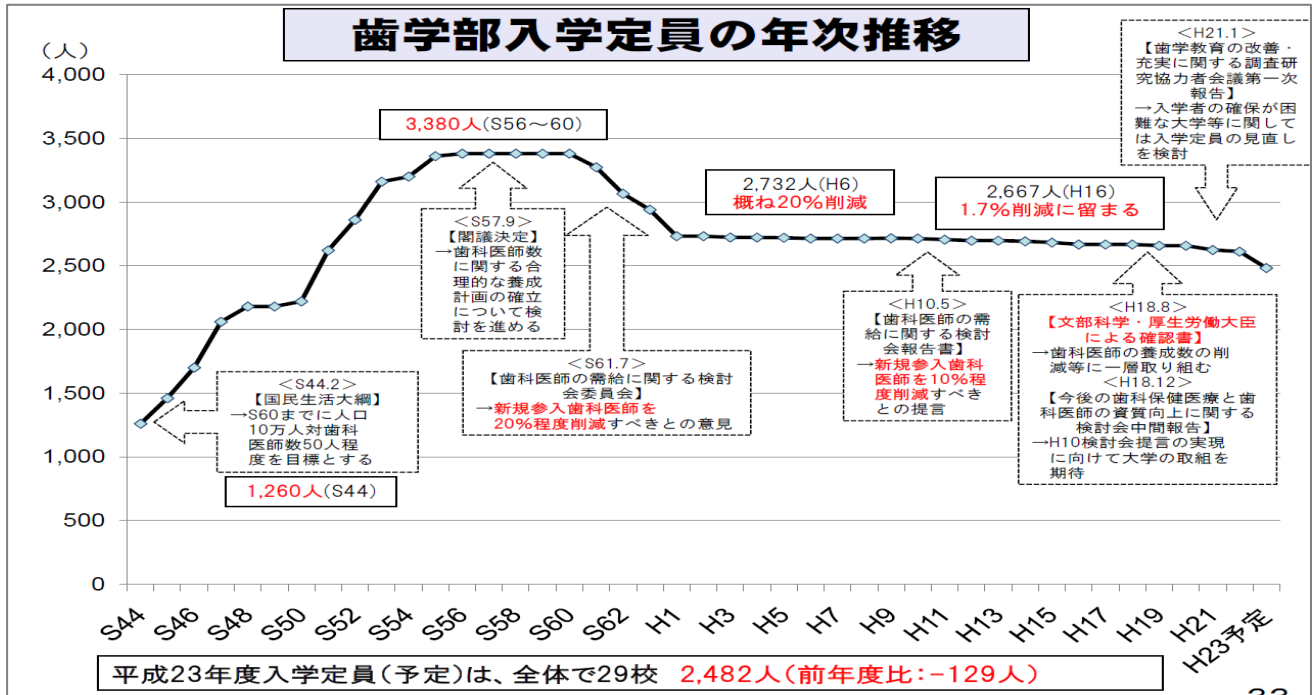
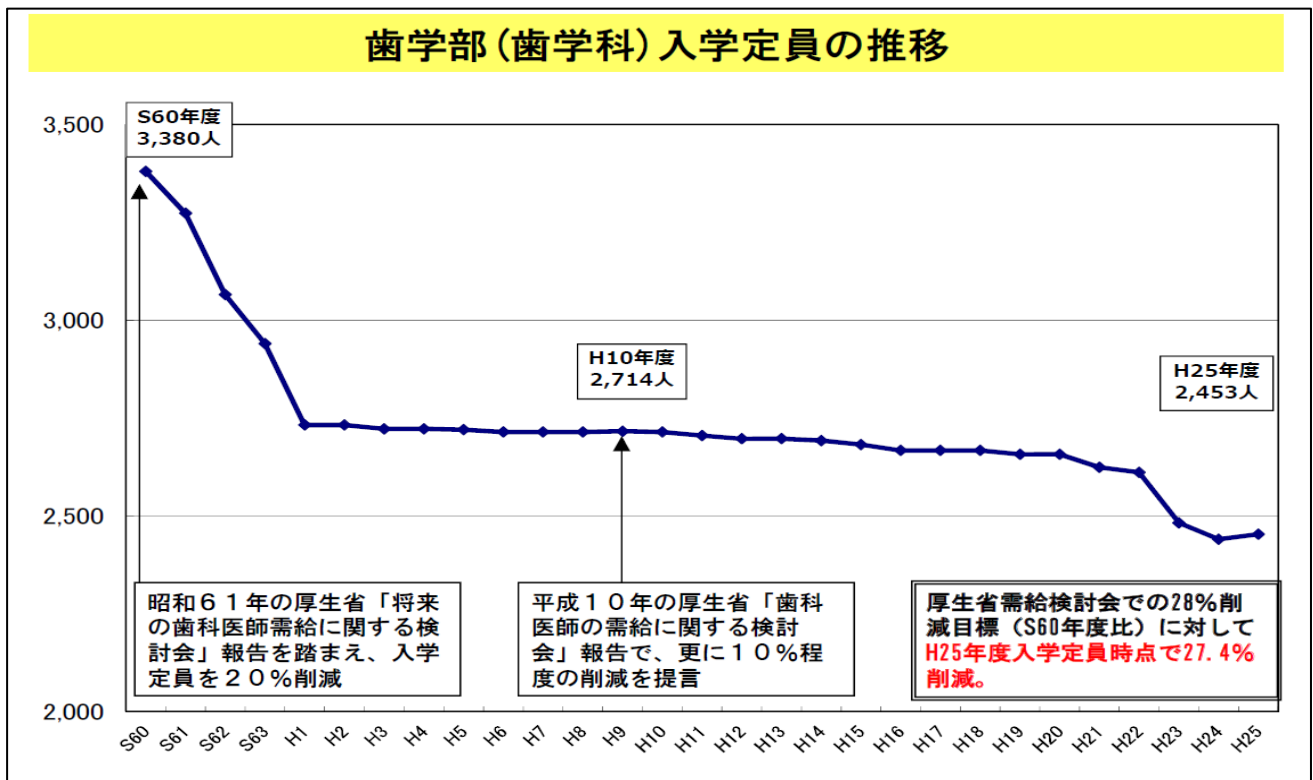


歯科大学・歯学部入試

歯学部入学定員



歯学部の定員は、昭和 56～60 年の 3,380 名をピークに、減少している。(現在は、2,430 名)



平成 25 年においては、**昭和 60 年の入学定員数に対する削減率は、全体で 27.4%、国立大学で 34.7%、公立大学で 20.8%、私立大学で 25.2%**となっている。

歯学部入学定員削減に関する経緯

①昭和57年9月：閣議決定「医師及び歯科医師については、全体として過剰を招かないよう、養成計画を確立すること」
 ※厚生省報告書(平成10年)等による、具体の削減目標 医師：10%、**歯科医師：20%**

②平成9年6月：閣議決定「引き続き医学部定員の削減に取り組む」
 ※厚生省報告書等による、歯科医師についての新たな削減目標(更に10%程度の削減)

③平成18年7月：「医師の需給に関する検討会」報告書(厚生労働省)
 ・医学部定員の増加は、中長期的には医師過剰をきたすが、人口に比して医学部定員が少ないために未だ医師が不足している県の大学医学部に対して、さらに実効性のある地域定着策の実施を前提として定員の暫定的な調整を検討する必要がある。

④平成18年8月：総務・財務・文部科学・厚生労働の各大臣による確認書
 【医師の定員について】
 ・医師不足が特に深刻と認められる県並びに自治医科大学において、平成20年度からの最大10年間に限り、将来の医師養成を前倒しするとの趣旨の下、10名を限度として、現行の当該県内における医師の養成数に上乗せする暫定的な調整の計画を容認する。

(注)対象県：青森、岩手、秋田、山形、福島、新潟、山梨、長野、岐阜、三重

・引き続き、医学部定員の削減等に取り組む。

【歯科医師の定員について】
 ・①各大学への一層の定員減の要請や②歯科医師国家試験の合格基準の引上げにより、養成数の削減等に一層取り組む。

⑤平成18年8月：上記の関係大臣合意とあわせて、定員増以外の対策も含む「新医師確保総合対策」をとりまとめ。

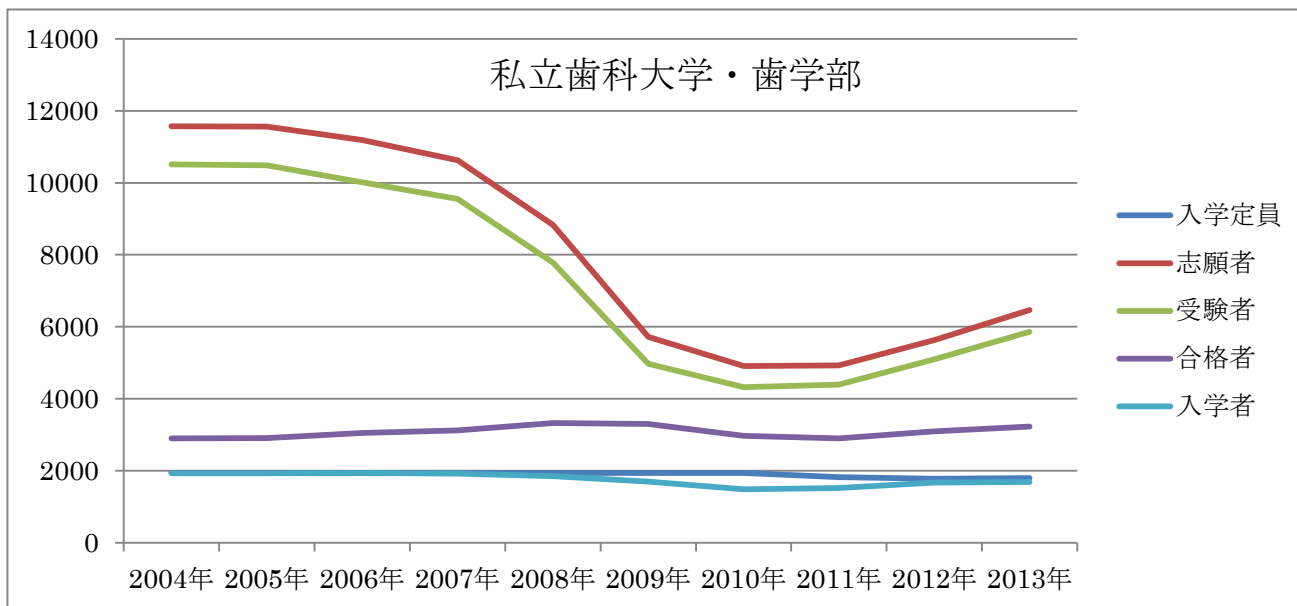
⑥平成19年5月：政府・与党において「緊急医師確保対策」をとりまとめ。

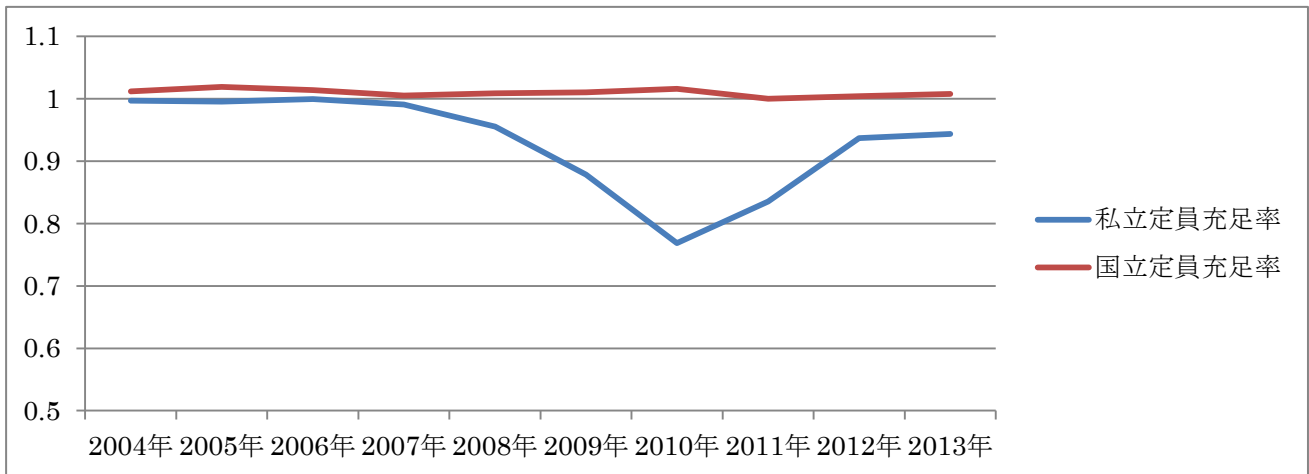
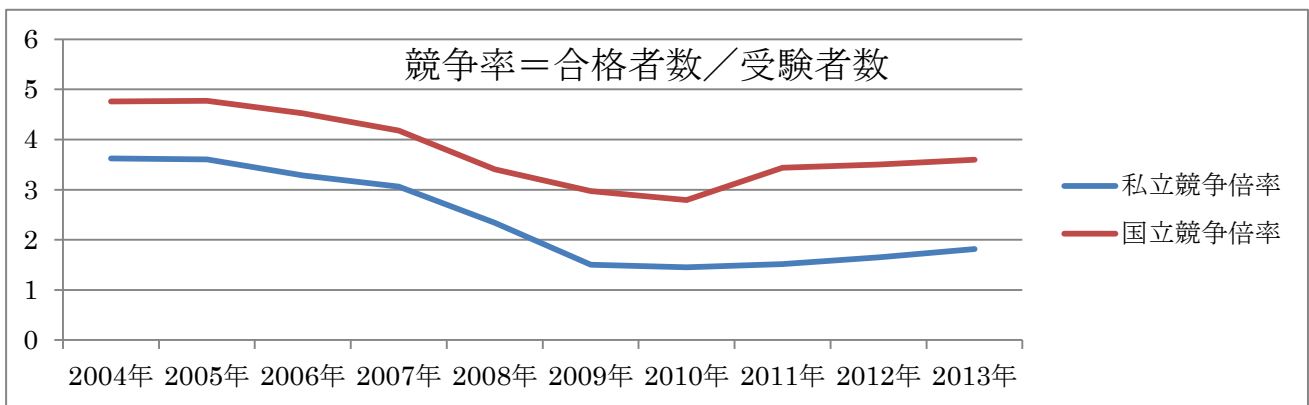
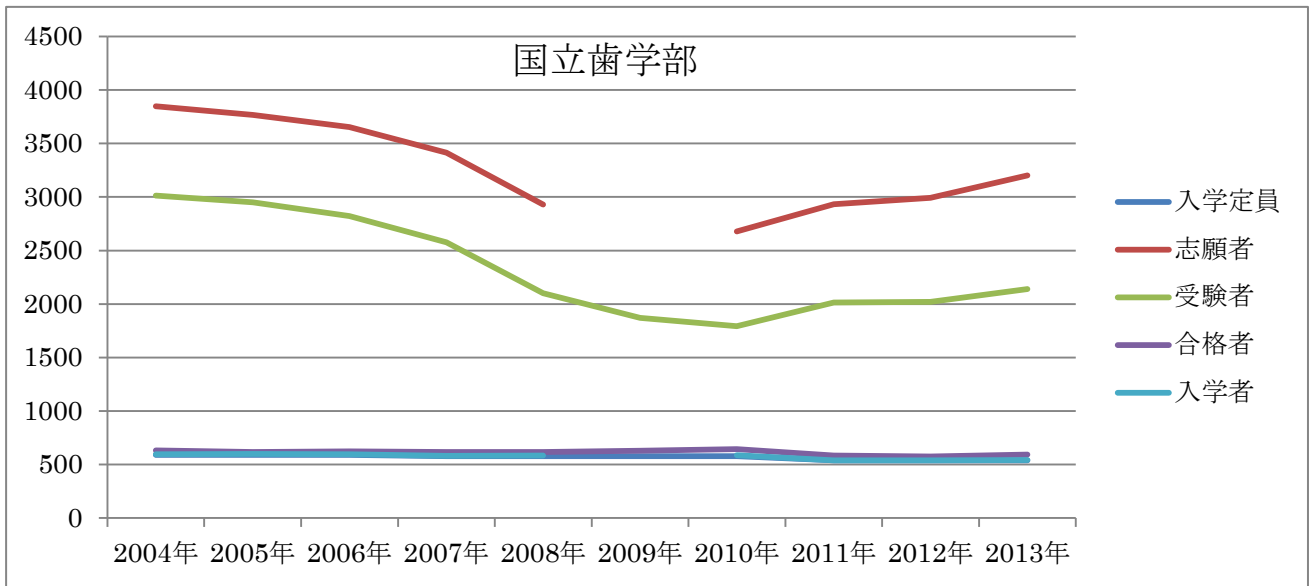
⑦平成19年8月：厚生労働省・総務省・文部科学省において、「緊急医師確保対策」に関する具体の取組みをとりまとめ。

歯科大学・歯学部入試状況

【 歯科大学・歯学部「入学定員数」「志願者数」「受験者数」「合格者数」「入学者数」の推移 】

歯学部入試は2006年度入試頃から国公立を問わず**急激な志願者の減少**に直面した。

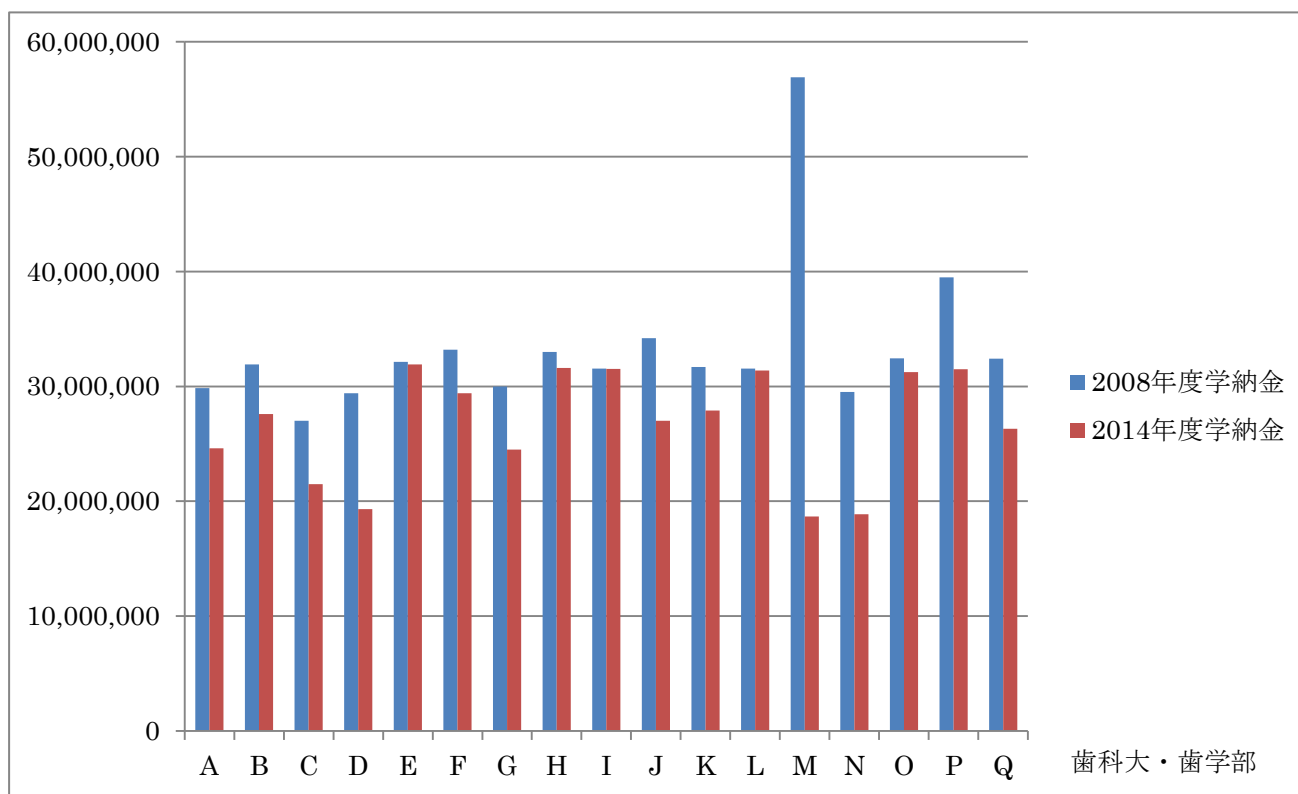




2012年度の各大学歯学部の入学状況は、全国に17校ある私立大学歯学部のうち、4割にあたる7校が2年連続で入学者数が募集人員を下回る定員割れを起こした。そのうち6校は3年連続で定員割れしており、定員の2割に満たない大学もあった。競争倍率も、私立大学では2.0倍に届かない傾向が長く続いている。平成25年度においては、私立大学の定員充足率は全体では96.0%となっている。

こうした傾向に対し、大学としての選抜機能を放棄し、本来国家試験に合格できないような資質のものまで入学を許しているとの批判が上がっている。

歯科大学・歯学部 学納金



その他、委託徴収金、諸会費、実験実習費等が必要な学校もあり。

歯科医師の養成には医師と同じ6年間の修業年限が必要であり、歯科医師の養成の7割が私立により行われ、私立医科大学・医学部と同程度の約3,000万円の学納金が卒業までに必要である。

教育への投資を行っても、将来の回収が困難であり、再生産が不可能な状況と判断されることが、歯科医師の魅力を下させ、私立歯科大学・歯学部の定員割れと受験者の学力低下の原因となっている。

「高額」のイメージが強い私立の歯科系大学で、授業料など納付金の大幅な引き下げが相次いでいる。ここ数年、入学者数の低迷が続き、各大学は「値下げ合戦」に勝ち抜いて優秀な学生を確保しようと懸命だ。

私立の歯科系大学は全国に17校ある。日本私立歯科大学協会によると、在学する6年間に学生が納める平均額は、2011年度で約2900万円。07、08年度の約3300万円から1割以上減った。値下げが本格化したのは、3校が引き下げた10年度の入試から。11年度は8校が引き下げ、2千万円を切る大学も出てきた。12年度も3校が引き下げたという。

松本歯科大（長野県塩尻市）は、値下げ幅が際立つ。08年度まで最も高い約5700万円を集めていたが、09年度に約5200万円、10年度に3200万円、12年度は一気に08年度の3分の1近い2048万円まで下げる。他校が納付金を下げて志願者数を増やしたのに倣ったという。値下げは、在校生には適用されない。朝日新聞 DIGITAL 2011年11月28日 より一部抜粋

（注……2014年度はさらに下がっている）

齒科医師国家試験

第107回（平成26年）歯科医師国家試験結果

| 学校名 | | 総数 | | | 新卒者 | | | 既卒者 | | |
|--------------|---------------|-------------|-------------|---------------|-------------|-------------|---------------|------------|------------|---------------|
| | | 受験者数 | 合格者数 | 合格率 | 受験者数 | 合格者数 | 合格率 | 受験者数 | 合格者数 | 合格率 |
| 国公立 | | | | | | | | | | |
| 1 | 北海道大学歯学部 | 72 | 55 | 76.40% | 60 | 51 | 85.00% | 12 | 4 | 33.30% |
| 2 | 東北大学歯学部 | 57 | 45 | 78.90% | 49 | 43 | 87.80% | 8 | 2 | 25.00% |
| 3 | 東京医科歯科大学歯学部 | 71 | 50 | 70.40% | 60 | 47 | 78.30% | 11 | 3 | 27.30% |
| 4 | 新潟大学歯学部 | 44 | 34 | 77.30% | 37 | 33 | 89.20% | 7 | 1 | 14.30% |
| 5 | 大阪大学歯学部 | 61 | 50 | 82.00% | 54 | 48 | 88.90% | 7 | 2 | 28.60% |
| 6 | 岡山大学歯学部 | 67 | 58 | 86.60% | 56 | 52 | 92.90% | 11 | 6 | 54.50% |
| 7 | 広島大学歯学部 | 67 | 54 | 80.60% | 58 | 49 | 84.50% | 9 | 5 | 55.60% |
| 8 | 徳島大学歯学部 | 39 | 23 | 59.00% | 30 | 20 | 66.70% | 9 | 3 | 33.30% |
| 9 | 九州大学歯学部 | 64 | 54 | 84.40% | 52 | 47 | 90.40% | 12 | 7 | 58.30% |
| 10 | 長崎大学歯学部 | 61 | 47 | 77.00% | 53 | 42 | 79.20% | 8 | 5 | 62.50% |
| 11 | 鹿児島大学歯学部 | 61 | 50 | 82.00% | 50 | 45 | 90.00% | 11 | 5 | 45.50% |
| 21 | 九州歯科大学 | 113 | 85 | 75.20% | 98 | 81 | 82.70% | 15 | 4 | 26.70% |
| 国・公立計 | | 777 | 605 | 77.90% | 657 | 558 | 84.90% | 120 | 47 | 39.20% |
| 私立 | | | | | | | | | | |
| 31 | 北海道医療大学歯学部 | 106 | 69 | 65.10% | 74 | 57 | 77.00% | 32 | 12 | 37.50% |
| 32 | 岩手医科大学歯学部 | 96 | 46 | 47.90% | 51 | 34 | 66.70% | 45 | 12 | 26.70% |
| 33 | 奥羽大学歯学部 | 150 | 45 | 30.00% | 88 | 29 | 33.00% | 62 | 16 | 25.80% |
| 34 | 明海大学歯学部 | 135 | 93 | 68.90% | 88 | 74 | 84.10% | 47 | 19 | 40.40% |
| 35 | 日本大学松戸歯学部 | 162 | 106 | 65.40% | 101 | 73 | 72.30% | 61 | 33 | 54.10% |
| 36 | 東京歯科大学 | 128 | 121 | 94.50% | 123 | 117 | 95.10% | 5 | 4 | 80.00% |
| 37 | 日本歯科大学 | 174 | 118 | 67.80% | 143 | 97 | 67.80% | 31 | 21 | 67.70% |
| 38 | 日本大学歯学部 | 169 | 90 | 53.30% | 127 | 79 | 62.20% | 42 | 11 | 26.20% |
| 39 | 昭和大学歯学部 | 115 | 87 | 75.70% | 92 | 72 | 78.30% | 23 | 15 | 65.20% |
| 40 | 鶴見大学歯学部 | 158 | 78 | 49.40% | 98 | 57 | 58.20% | 60 | 21 | 35.00% |
| 41 | 神奈川歯科大学 | 150 | 88 | 58.70% | 100 | 62 | 62.00% | 50 | 26 | 52.00% |
| 42 | 日本歯科大学新潟生命歯学部 | 117 | 68 | 58.10% | 75 | 49 | 65.30% | 42 | 19 | 45.20% |
| 43 | 松本歯科大学 | 157 | 37 | 23.60% | 37 | 13 | 35.10% | 120 | 24 | 20.00% |
| 44 | 愛知学院大学歯学部 | 153 | 106 | 69.30% | 113 | 80 | 70.80% | 40 | 26 | 65.00% |
| 45 | 朝日大学歯学部 | 157 | 87 | 55.40% | 87 | 68 | 78.20% | 70 | 19 | 27.10% |
| 46 | 大阪歯科大学 | 158 | 100 | 63.30% | 94 | 71 | 75.50% | 64 | 29 | 45.30% |
| 47 | 福岡歯科大学 | 135 | 80 | 59.30% | 92 | 52 | 56.50% | 43 | 28 | 65.10% |
| 私立計 | | 2420 | 1419 | 58.60% | 1583 | 1084 | 68.50% | 837 | 335 | 40.00% |
| 認定及び予備試験 | | 3 | 1 | 33.30% | 1 | 0 | 0.00% | 2 | 1 | 50.00% |
| その他計 | | 3 | 1 | 33.30% | 1 | 0 | 0.00% | 2 | 1 | 50.00% |
| 総合計 | | 3200 | 2025 | 63.30% | 2241 | 1642 | 73.30% | 959 | 383 | 39.90% |

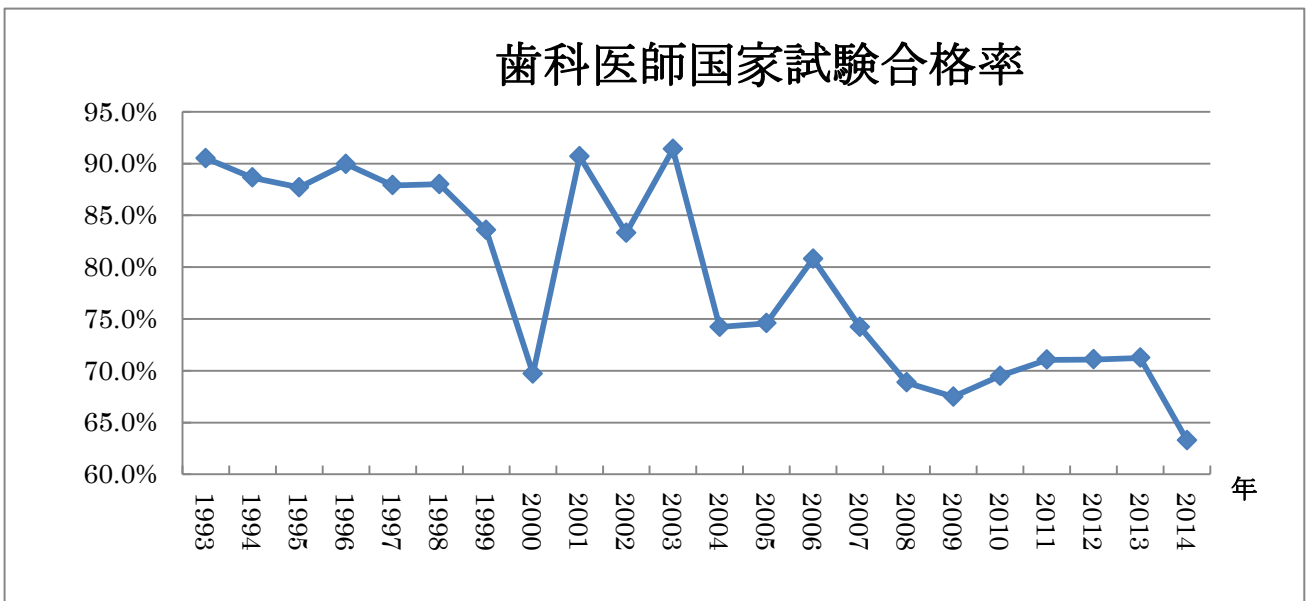
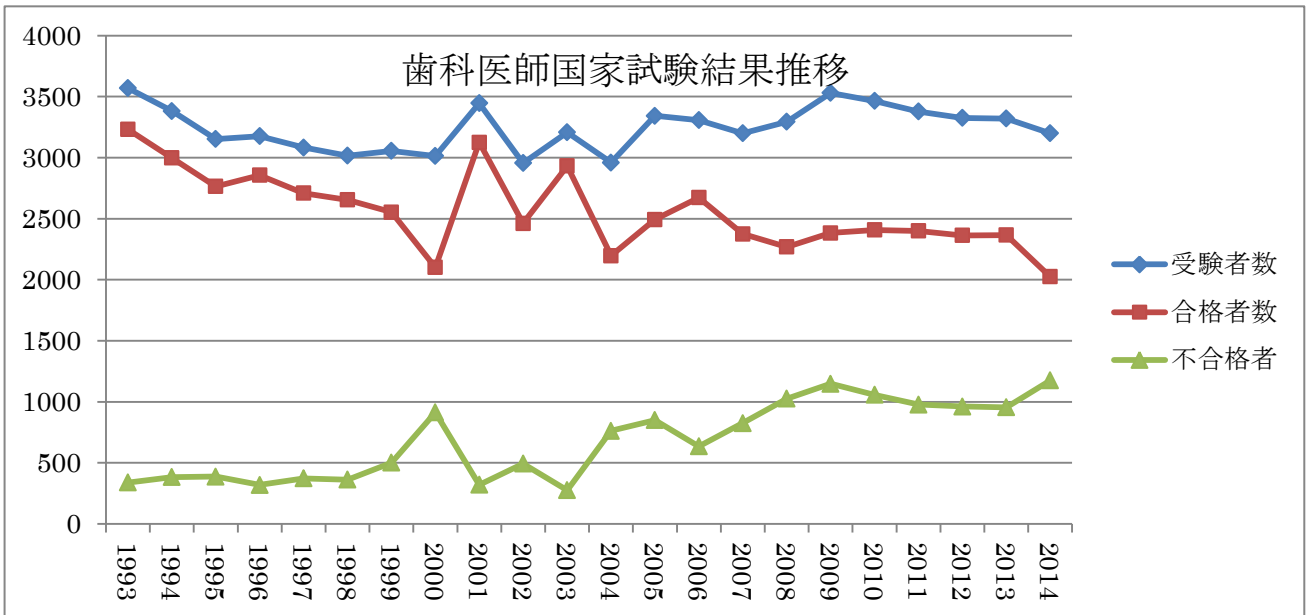
平成26年歯科医師国家試験 受験者数3200名、合格者2025名、**合格率は63.3%**であった。

不合格者は1175名。国公立大学合格率77.9%。私立大学合格率58.6%。

新卒者の合格率は73.3%、既卒者の合格率は39.9%。

歯科医師国家試験合格率が低い近年は、大学別の合格率が、大学入学志願者数を大きく左右する。

歯科医師国家試験合格率推移



不合格者数は増加傾向にあり、近年 1000 人前後存在している。不合格者だけでなく、卒業できない**留年者も相当数存在**する。(これは、歯科大学・歯学部受験浪人が減少しているのと対照的な傾向である。)

高額な学費を投資し、長期間勉学に励んだにもかかわらず、こうした結果になることは当人にとっても不幸なことである。

合格率の高低→大学の評価→大学志願者増減→入学者の資質を左右→合格率の高低という構図があるため、歯科大学・歯学部は、高い合格率を求め、本来の歯科医療教育から離れ、歯科医師国家試験のための**予備校化**しているのではないかとの指摘もある。

歯科医師国家試験合格基準

歯科医師の資質向上に関する主な取り組みについて

1 歯科医師臨床研修

- ・ 歯科医師としての人格をかん養し、総合的な診療能力（態度・技能・知識）を身につける観点から、平成18年度より必修化。平成21年12月に取りまとめられた「歯科医師臨床研修推進検討会第二次報告」を踏まえ、新たな臨床研修施設の類型を追加する等、臨床研修に係る省令や通知等の見直しを実施。平成23年度より、改正後の臨床研修制度に基づくプログラムの運用が開始。
- ・ 他方で、歯科医師臨床研修制度において指導歯科医の資格要件である指導歯科医講習会を実施。カリキュラム立案能力ならびに臨床研修指導技法を習得することを目的としている。

2 歯科医師国家試験

- ・ 平成18年8月に文部科学・厚生労働両大臣が確認書をかわし、今後の方向性が示されたところ。歯科医師の資質向上の観点と確認書を踏まえ、平成19年12月に歯科医師国家試験改善検討部会報告書をまとめ、平成20年度に歯科医師国家試験出題基準を改定。平成22年実施の試験より新しい合格基準が運用。
※直近（平成22年2月）の歯科医師国家試験合格率は69.5%（受験者数：3,465人、合格者数2,408人）

歯科医師については、以下のとおり、養成数の削減等に一層取り組む。

- (1) 歯学部定員については、各大学に対して更に一層の定員減を要請する。
- (2) 歯科医師国家試験の合格基準を引き上げる。

平成18年8月31日 文部科学大臣 厚生労働大臣

3 その他（在宅歯科医療の推進及び医療安全対策）

- ・ 歯の健康力推進歯科医師等養成講習会
…主に高齢期・寝たきり者等に対する在宅歯科医療及び口腔ケア等のプロフェッショナルケアや食育支援について専門性を持つ歯科医師等を養成
- ・ 歯科医療関係者感染症予防講習会
…歯科治療時の患者及び歯科医療従事者へのHIV等感染症の感染を防ぎ、患者が安心して歯科治療を受けられるよう歯科医療従事者に対して講習を実施

今後の歯科保健医療と歯科医師の資質向上等に関する検討会中間報告書(概要)

平成18年12月 厚生労働省医政局歯科保健課 より抜粋

歯科医師の過剰は、歯科医師の専門職としての**魅力の低下と歯学部入学者の質の低下**を招くことになる。また、勤務医として長期間従事することは一般的に困難であり、技術的に未熟な歯科医師が開業するといった問題も生じることとなる。その結果、**患者が期待する歯科医療の水準と提供される歯科医療との水準が乖離し患者の満足度が低下**することとなる。

(今後の方針)

現時点で歯科医師数の伸びをゼロとし、新規参入歯科医師の9割が稼働すると仮定すると、**新規参入歯科医師数を約1,200人程度とする必要がある**。これは、平成18年度の歯学部の募集人員2,667人、平成18年の国家試験合格者数2,673人の**45%**に相当する。

「新規参入歯科医師数を約1,200人程度」を早期に実現できると考える歯科医療関係者は少ないだろう。しかし、どこかで強力なブレーキを踏まなければならない時期はすでに来ている。

最低修業年限での国試合格率

平成25年5月 医学教育課調べ

| No. | 大学名 | H19年4月 入学者数 | 平成25年3月新卒合格者 数(編入学者及び修業年限 超過がある学生を除く。) | 最低修業年限 での国試合格率 |
|---------|----------|----------------|--|-------------------|
| 1 | 北海道大学 | 60 | 42 | 70.0% |
| 2 | 東北大学 | 55 | 47 | 85.5% |
| 3 | 東京医科歯科大学 | 55 | 48 | 87.3% |
| 4 | 新潟大学 | 40 | 29 | 72.5% |
| 5 | 大阪大学 | 60 | 42 | 70.0% |
| 6 | 岡山大学 | 56 | 44 | 78.6% |
| 7 | 広島大学 | 55 | 40 | 72.7% |
| 8 | 徳島大学 | 40 | 37 | 92.5% |
| 9 | 九州大学 | 55 | 38 | 69.1% |
| 10 | 長崎大学 | 50 | 34 | 68.0% |
| 11 | 鹿児島大学 | 57 | 47 | 82.5% |
| 国立大学合計 | | 583 | 448 | 76.8% |
| 12 | 九州歯科大学 | 95 | 72 | 75.8% |
| 公立大学合計 | | 95 | 72 | 75.8% |
| 13 | 北海道医療大学 | 96 | 46 | 47.9% |
| 14 | 岩手医科大学 | 80 | 37 | 46.3% |
| 15 | 奥羽大学 | 96 | 40 | 41.7% |
| 16 | 明海大学 | 120 | 64 | 53.3% |
| 17 | 東京歯科大学 | 128 | 96 | 75.0% |
| 18 | 昭和大学 | 96 | 66 | 68.8% |
| 19 | 日本大学 | 128 | 85 | 66.4% |
| 20 | 日本大学(松戸) | 128 | 69 | 53.9% |
| 21 | 日本歯科大学 | 128 | 69 | 53.9% |
| 22 | 日本歯科(新潟) | 96 | 36 | 37.5% |
| 23 | 神奈川歯科大学 | 120 | 53 | 44.2% |
| 24 | 鶴見大学 | 128 | 74 | 57.8% |
| 25 | 松本歯科大学 | 94 | 8 | 8.5% |
| 26 | 朝日大学 | 128 | 71 | 55.5% |
| 27 | 愛知学院大学 | 128 | 89 | 69.5% |
| 28 | 大阪歯科大学 | 128 | 68 | 53.1% |
| 29 | 福岡歯科大学 | 96 | 60 | 62.5% |
| 私立大学合計 | | 1,918 | 1,031 | 53.8% |
| 国公立大学合計 | | 2,596 | 1,551 | 59.7% |

歯科大学・歯学部に入学者のもの、6年でストレートに卒業し、そのまま歯科医師国家試験に合格する者の割合は少なく、全体で59.7%、国立大学で76.8%、私立大学で53.8%でしかない。

入学した学生の資質に問題があるのか、大学側が歯科医師国家試験をあまりに意識しすぎて卒業させないようにしているのか。

出願者に対する合格率

出願者に対する合格率 学校別合格率

受験者に対する合格率と出願者に対する合格率

受験者数ではなく、「出願者」に対する学校別合格率を表示する。

| | 出願人数 | 受験者数 | 合格者 | 受験者に対する合格率 | 予備校が参考にする 出願者に対する合格率 |
|------------|------|------|-----|------------|-------------------------|
| 東京歯科大学 | 137 | 123 | 117 | 95.1% | 85.4% |
| 昭和大学 | 98 | 92 | 72 | 78.3% | 73.5% |
| 愛知学院大学 | 117 | 113 | 80 | 70.8% | 68.4% |
| 日本歯科大学 | 148 | 143 | 97 | 67.8% | 65.5% |
| 日本大学歯学部 | 130 | 127 | 79 | 62.2% | 60.8% |
| 日本大学松戸歯学部 | 122 | 101 | 73 | 72.3% | 59.8% |
| 日本歯科大学(新潟) | 82 | 75 | 49 | 65.3% | 59.8% |
| 明海大学 | 132 | 88 | 74 | 84.1% | 56.1% |
| 福岡歯科大学 | 101 | 92 | 52 | 56.5% | 51.5% |
| 大阪歯科大学 | 140 | 94 | 71 | 75.5% | 50.7% |
| 朝日大学 | 135 | 87 | 68 | 78.2% | 50.4% |
| 北海道医療大学 | 121 | 74 | 57 | 77.0% | 47.1% |
| 鶴見大学 | 124 | 98 | 57 | 58.2% | 46.0% |
| 神奈川歯科大学 | 141 | 100 | 62 | 62.0% | 44.0% |
| 岩手医科大学 | 81 | 51 | 34 | 66.7% | 42.0% |
| 奥羽大学 | 126 | 88 | 29 | 33.0% | 23.0% |
| 松本歯科大学 | 59 | 37 | 13 | 35.1% | 22.0% |

上の表のように、**歯科医師国家試験の出願者数と受験者数には乖離がある**。歯科医師国家試験を受験するつもりで出願したが、何らかの理由で受験できなかったということだが、おそらく、大学の評価に直結する歯科医師国家試験の合格率を上げるため、**国家試験に合格する見込みの少ない生徒を、卒業させない、卒業を遅らせる**などの方策を取っているためだと推察される。

また、たとえば、第107回(平成26年)の結果では、新卒者の合格率が73.3%であるのに対して、既卒者の合格率は40.0%となっている。既卒者の合格率が低いため、ますます、国家試験合格レベルに達しない生徒は卒業させない力が働くと思われる。

卒業できなかった生徒は、さらにもう一年高額な学費をかけて次年度卒業を、国家試験受験を目指すことになる、あるいは、やむなく退学を選択することになる。

歯科大学にも私学助成金(公費)が投入されていることを考えると、このような現実は国民の負担が増えることにもつながっているとも言える。

3 医学・歯学の正規の課程を修めて当該年度の前年度末に卒業した者の医師・歯科医師国家試験の合格率(以下「当該年度合格率」という。)が**70%未満の大学は医学・歯学研究科に係る補助項目のうち、「大学院高度化推進特別経費」の補助金を交付しないものとする。**

ただし、当該年度合格率が70%未満であっても、当該年度合格率を含む過去3年度の平均合格率が70%以上のものについては、この限りではない。

私立大学等経常費補助金(私立大学教育研究高度化推進特別補助) 配分基準

平成25年度 歯学部（歯学科）における留年・休学者の割合

平成25年度 歯学部（歯学科）における留年・休学者の割合

※ 在学中に一度でも留年・休学を経験した学生の割合

| 大学名 | 学生に占める 留年・休学者の 割合 | 学年別内訳 | | | | | |
|-------------|-------------------------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|
| | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | 5年次 | 6年次 |
| 1 北海道大学 | 11% | 9% | 18% | 7% | 9% | 6% | 15% |
| 2 東北大学 | 14% | 14% | 9% | 20% | 15% | 17% | 10% |
| 3 東京医科歯科大学 | 11% | 4% | 14% | 8% | 17% | 13% | 10% |
| 4 新潟大学 | 7% | 2% | 3% | 6% | 9% | 9% | 10% |
| 5 大阪大学 | 22% | 2% | 10% | 33% | 30% | 32% | 22% |
| 6 岡山大学 | 8% | 4% | 4% | 12% | 14% | 4% | 7% |
| 7 広島大学 | 15% | 14% | 25% | 13% | 11% | 8% | 15% |
| 8 徳島大学 | 16% | 7% | 7% | 21% | 11% | 27% | 19% |
| 9 九州大学 | 14% | 2% | 14% | 18% | 20% | 21% | 9% |
| 10 長崎大学 | 15% | 0% | 14% | 18% | 25% | 15% | 16% |
| 11 鹿児島大学 | 9% | 5% | 8% | 14% | 6% | 13% | 6% |
| 国立大学合計 | 13% | 6% | 12% | 16% | 16% | 15% | 13% |
| 12 九州歯科大学 | 13% | 7% | 17% | 6% | 14% | 11% | 20% |
| 公立大学合計 | 13% | 7% | 17% | 6% | 14% | 11% | 20% |
| 13 北海道医療大学 | 35% | 2% | 14% | 41% | 39% | 43% | 50% |
| 14 岩手医科大学 | 30% | 11% | 20% | 28% | 43% | 37% | 37% |
| 15 奥羽大学 | 34% | 11% | 10% | 24% | 31% | 37% | 47% |
| 16 明海大学 | 22% | 7% | 12% | 21% | 27% | 33% | 36% |
| 17 東京歯科大学 | 13% | 3% | 10% | 15% | 17% | 15% | 20% |
| 18 昭和大学 | 18% | 1% | 9% | 23% | 23% | 23% | 28% |
| 19 日本大学 | 10% | 11% | 16% | 3% | 13% | 6% | 11% |
| 20 日本大学（松戸） | 24% | 12% | 20% | 25% | 34% | 30% | 28% |
| 21 日本歯科大学 | 18% | 2% | 11% | 28% | 16% | 18% | 31% |
| 22 日本歯科（新潟） | 34% | 4% | 12% | 32% | 31% | 59% | 58% |
| 23 神奈川歯科大学 | 34% | 18% | 23% | 32% | 31% | 39% | 49% |
| 24 鶴見大学 | 31% | 4% | 23% | 27% | 53% | 38% | 38% |
| 25 松本歯科大学 | 33% | 15% | 14% | 16% | 30% | 54% | 83% |
| 26 朝日大学 | 29% | 7% | 20% | 24% | 38% | 41% | 50% |
| 27 愛知学院大学 | 19% | 15% | 22% | 18% | 22% | 21% | 16% |
| 28 大阪歯科大学 | 19% | 9% | 12% | 21% | 25% | 15% | 33% |
| 29 福岡歯科大学 | 16% | 6% | 18% | 20% | 23% | 15% | 17% |
| 私立大学合計 | 23% | 8% | 16% | 22% | 28% | 29% | 36% |
| 国公立大学合計 | 21% | 7% | 15% | 20% | 25% | 25% | 31% |

平成25年5月 医学教育課調べ

平成25年度において、留年・休学者は21%（国立大学13%、私立大学23%）。

4人に一人が留年・休学者ということになる。

平成 23 年～28 年までの歯科医師国試合格率の推計値

歯科医師国試の厳しい結果に大久保満男会長が考え示す—日本歯科医師会定例記者会見

2014 年 3 月 31 日 作成者: ikeipress

日本歯科医師会の定例記者会見が 3 月 27 日、東京・市ヶ谷の歯科医師会館で行われた。

質疑において第 107 回歯科医師国家試験の全体合格率が低調な結果となったことについて、大久保満男会長は次のように考えを示した。

大久保「入学後 6 年間の教育過程を経れば、常識的には 8 割程度は合格するようであれば歯科大学の教育の意味が無いし、それが筋であろうと考えている。問題は学生の質にあるのか教育にあるのか、どちらにせよ 63.3%という数字は異常に低いもので憂慮すべき結果と考えている。受験生が激減した時期との関連も含め、分析をした上で早期に日歯としての見解を示したい。」

歯科国試の合格率低下、大学入学時の偏差値と連動と見解—日本歯科医師会

2014 年 4 月 25 日 作成者: ikeipress

大久保満男会長は、「受験生の激減によって入試の選抜制を放棄すれば学生の質を担保することはできない。今回の 63.3%という結果は**歯科学生の基礎学力の低下**にあると考えられる。なぜなら歯科大学入試時の偏差値から推計した合格率と、実際の合格率の数値がほぼ一致しているからだ。この推計からすると、**平成 28 年には 49.5%まで低下し、これから 3 年間回復が期待できない確率が高い**」と述べ、大学側に対し選抜機能をもった入試、共用試験の機能強化を希望するとともに、関係省庁には資格試験から逸脱しないよう要望する意向を示し、「苦渋の提言とご理解いただきたい」と述べた。

| | 推計値 | 実際値 |
|------------------|-------|-------|
| 平成 23 年歯科医師国試合格率 | 69.7% | 71.0% |
| 平成 24 年歯科医師国試合格率 | 69.8% | 71.1% |
| 平成 25 年歯科医師国試合格率 | 67.8% | 71.2% |
| 平成 26 年歯科医師国試合格率 | 63.1% | 63.3% |
| 平成 27 年歯科医師国試合格率 | 53.4% | |
| 平成 28 年歯科医師国試合格率 | 49.5% | |

第107回歯科医師国家試験の結果に関する見解

公益社団法人 日本歯科医師会

考察

1950～1980年代（昭和20年代後半から昭和50年代）にかけて、歯科医師は大変不足していました。それは1961年に国民皆保険が始まり、金銭的負担が少なく歯科医療を受けられるようになったこと、砂糖の消費量が増加した上に、予防という概念が現在のように行き渡っておらず虫歯が激増したことが原因でした。

そこで政府は1960年以降から歯科大学、歯学部を増やしていく方針を打ち出し、1980年代前半までに16校を新設したのです。このことにより歯科医師の数はどんどん増え続け、1990年頃からは「このままでは歯科医師は過剰になる」と予測されつつも、きちんとした対策が取られずに今日に至っています。

歯科医師が増える＝歯科医院が増えるという構造であったため、歯科医院数は右肩上がりが増えていきました。果たして、虫歯がどんどん減っている状況では当然、一軒あたりの患者数は少なくなり、歯科医院の経営は厳しいものになっていきます。

患者にとっては、歯科医院が増えることは、アクセスがしやすくなる、選択の余地が増える、競争原理が働くなど、メリットに感じる部分もあるでしょう。けれども、「歯科医院は過剰」「歯科医院は経営が苦しい」などのイメージは、「歯科医師」という職業の魅力を低下させ、結果、歯科大学、大学歯学部の志願者が減少し、優秀な学生を確保することを困難にさせます。このことが、日本の歯科医療の質の低下につながると懸念されています。

実際、ここ最近のデータによれば、歯科医師数は増加しているにも関わらず、歯科医院数は、ほぼ変わらないか微増に留まっています。さらに、経営者としての開業医が減り、歯科医院の勤務医が増えていきます。つまり現状では、既に歯科医院数は、飽和状態になり、歯科医師がみんな開業医になるという構造ではなくなってきたということなのです。

歯科医師全員が開業医になる、という意味では、歯科医師数は過剰であるといえるでしょう。歯科医師＝開業医が常識で、開業医でないと歯科医師としての仕事の「魅力」がないということであれば、今の状況のように、優秀な人材が確保できなくなるというのも頷けます。歯科大学を少なくして、もっと歯科医師を減らせという声に説得力があるのかもしれませんが。

ここで発想を変えて、歯科医師＝歯科医療の担い手と考えてみたらどうでしょうか。歯科医師の可能性をもっと広く考え、活躍の場を増やしていくと、新たな歯科医師としての仕事の魅力が増していき、優秀な人材が歯科医療に携わるようになり、あらゆる方面で患者（国民）の利益に繋がっていくはずで、「開業医として稼ぐ」ばかりではなくて、「専門職の歯科医師として働く」というわけです。

例えば、予防と今いわれる診療を「治療」として公的医療制度に取り込む、医科病院での周術期医療に関わる歯科医療に診療報酬が支払われる、在宅での口腔ケアや医療の制度が拡大される、ということになれば、今よりも、歯科医師の活躍する場が増えるはずですが。言い方を変えれば、制度に取り込まれないから、歯科医師の働く場が少ないとさえいえるのが現状です。他にも、医学研究や医療行政にもっと多くの歯科医師が携わる、民間の研究機関に勤務するなど、専門家である歯科医師としての能力を活かせる場はたくさんあるのではないのでしょうか。

長い間、歯科医師は卒後数年すると開業医になり、自分だけの臨床能力を上げ、自院のみの集患を考え、経営を安定させることだけに終始していました。ですから、歯科医師が増える＝商売敵が増えるという捉え方になってしまったのでしょうか。そのため、歯科医師以外の人たちにも「歯科医師過剰問題は歯科医師が困っているだけ」と見えていたのです。

制度や環境の整備は歯科医師だけではできません。国民が欲し、国が動く必要があります。そのためには、歯科医療の発展は、国民の大きな利益に繋がるということを広く国民が、認識することが必要となります。

もし、歯科医師過剰問題を歯科医師だけの問題ではなく、この国の歯科医療需給問題として捉えていくことが出来れば、歯科医師の能力を引出し、発揮できる多くの場があることに、国民は気付くはずですが。そして、それを困難にさせている制度や環境を整えれば、それらの恩恵を受けられるとわかるのではないのでしょうか。供給は余っているのですから。

2014/06/18 NPO法人みんなの歯科ネットワーク